

## 事業報告書（令和7年度）

事業名 劇団夢幻月が伝える SDGs

団体名 劇団夢幻月 担当者名 福島紀衣

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容（日時、場所、講師、参加対象者、人数、内容等）

#### ●展示『シアター・グリーン・ブック』

2025年8月7日(木)～8日(金) おかやま SDGs フェア 2025

岡山コンベンションセンター

当日運営5人

シアター・グリーン・ブックは、舞台関係者と環境の専門家によって作られた舞台業界に特化した環境ガイドラインである。劇団夢幻月はこのプロセスに賛同した上で、ガイドラインに沿った活動はしていない事を明言。根本の目的である、環境の持続可能性を理解し、私達が出来た事で維持を続けている事を説明した。昨年度に行った大型舞台の様子のパネル展示や、実際に廃材で作った舞台道具の展示を行った。

#### ●舞台『勇者タミーと山の怪物』

2025年8月21日(木) 令和7年度未来わくわく SDGs フェスタ

イオンモール岡山 1F 未来スクエア

当日運営4人

SDGs17項目の目標から、自分達含め観覧される方の誰にでも身近にある問題を考えてもらう事とし、ごみの不法投棄問題を扱った物語を新たに制作した。なるべく、問題を問題としてストレートに伝えず、猫や鴉の着ぐるみによるマスクプレイで緩さや笑いを取り入れ、一人一人が問題を解決したい想いに繋がるような作品を目指した。

### 2. ESDの視点

#### ①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

#### ●展示『シアター・グリーン・ブック』

会場に足をお運び下さった方々が普段演劇に関わりの無い方ばかりだったので、「あの展示は何だろう」という好奇心から、私達の活動に関心を持ってお話を聞いてくださる方が多かったと思う。中には、「自分達の活動の参考にしたい」と言って下さる方や、ワークショップの様子を見学に来られる方もいた。舞台では無い形で、舞台を伝える事により、相手の関心を高めたとと思う。

#### ●舞台『勇者タミーと山の怪物』

観覧された方から、「山だけでなく私達が住む街にもゴミが捨てられている事があり、それを見ても関わろうとしなかった自分に改めて気づかされた」と言われた。気づく事が行動

に移す事に直結するとは限らないが、意識の中に残った事が、一步進むきっかけになると思う。今回この舞台を行った事で、劇団員の意識も環境への配慮の意識が一層高まった。日々街のゴミを拾うわけでは無いが、空き缶が落ちていたら拾って近くのゴミ箱に入れる…など、出来る事はやって行く意識・行動が生まれたと思う。

②どのように学び合いを取り入れたか

●展示『シアター・グリーン・ブック』

パネル展示だけでなく、舞台道具を置いた事が一番効果であったと思う。実際に見て触れていただき、劇団員が対話をする事で、相手も考えて下さり、こちらも相手の意見を受け止め考える事に繋がった。

また、時間がある時は劇団員も他の展示を見て回り、他者の活動に目を向けるよう心がけた。自分たちの活動ばかりに目を向けず、視野を広げる機会を大切にした。

●舞台『勇者タミーと山の怪物』

会場が開かれた空間だった為、メッセージ性のある作品に特化する事を意識した。しかし、こちらからの一方的な押し付けにならないよう、「悪」を明確化せず、観客の方々が作品を通して「どうすればもっと良くなるのか」が考えられるような方向性の物語を提供した。

③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

●展示『シアター・グリーン・ブック』

ワークショップを行い、廃材が廃材では無くなる(新しいものに生まれ変わる)「ワクワク」の感覚を体感してもらいました。大人も子供も問わず、ワークショップに参加された方はどなたも夢中になっている様子がうかがえた。見方によっては捨てるものであっても、見方によっては宝物になる事に気づいてもらい、物を大切にしておく気持ちを生みだせたと感じている。

●舞台『勇者タミーと山の怪物』

計画段階ではミニワークを組み込み、ワークをする目的が「誰か(何か)を助ける事」と紐づける事が一番の効果と考えていたが、決められた時間枠の中でワークを組み込むことが出来なかった。ワークで作ったものを持ち帰ってもらうことで、自らが実践した事が意味のあるものだったと、自己肯定もできる為、見て終わりでは無い舞台を創っていく事が今後の意識する点である。

3. 取組の成果(事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。)

今回私たちは、現状の活動を維持しつつも、課題と向き合い舞台作品の在り方やステークホルダーとの繋がり方を見直さなければならないと考えている中で、2点の目標を掲げていた。

- ① 劇団夢幻月が企画提供する作品に興味関心のあるすべての子供達に行き届く作品を作る事。
- ② 地域の熱量の有無にかかわらず協働が出来る土壌を作っていく事。

③ 演劇と SDGs の結びつき外部に周知し、関心につなげていく事。

この三つの目標を達成する為、今回初めて「おかやま SDGs フェア」への出展と「未来わくわく SDGs フェスタ」への出演を実行した。自分たちの力だけではこのような大きな企画の場に参加する事は出来なかったと思っている。実施に向けて関係各所に相談させていただき、実行に繋がった。

今回の取組は、劇団の活動として新たな一歩だと感じている。新しい関りが広がり、今後の活動の活動が広がるきっかけとなった。劇団を知らない方々に夢幻月という団体の事を知っていただいたことが、何よりも良い結果である。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

現在劇団夢幻月は、岡山市立公民館にお力添え頂き、公民館での活動がメインの軸となっている。活動の範囲を広げる為、各公民館に打診をしているが、館や地域の特性上、従来の作品の在り方では劇団夢幻月が必要とされていない事もある。

当初の計画の通り、今回新たに作った舞台作品は、今後各地域で実施をしてきたいと考えている。従来、演劇活動を新たな教育へと転用する事が劇団の目標であった。地域毎に求められているものは異なる為、各地域が求めるものを提供できるよう活動範囲を広げていきたい。

今回の活動の結果から、本来であれば、もっと劇団が各公民館と対話を行い、地域の課題に向き合う事が必要なのだと感じている。一方的では無く、地域に寄り添える団体である事が、相互の支え合いとなり、発展・持続に繋がると考える。

併せて、劇団が ESD プロジェクトに参加させていただいた時から意識している、「心の刺激で高齢者の課題（認知症・身体支障）を解決する取組」を、劇団の演劇経験をベースに提供していきたい。

今後日本は人生 100 年時代となり、“高齢者”と呼ばれる時間も長くなる。長い時間を高齢者の時間を楽しく健康に楽しく過ごして行くためには、本人が体や心のメンテナンスを行うだけでなく、社会との繋がりを断たない事である。新しい仲間と出会う機会を増やし、他者とコミュニケーションを取る事で、孤立感を軽減できる。同世代に限らず、幅広い年代の方との機会創出は、より心の刺激になる。演劇は総合芸術である為、自分の好きな事を伸ばして行ける場であり、自分の役割が出来る事で活力が生まれる。併せて自分が知らない事を経験して行ける刺激の場にもなる。

演劇が独りでは創れないものである点を活かし、演劇を活用した高齢者の生きる活力につながる方法を模索したい。

(様式第8号)

添付写真① おかやま SDGs フェア 2025

●展示『シアター・グリーン・ブック』



展示物

- ・劇団夢幻月シアター・グリーン・ブック説明書
- ・舞台写真
- ・舞台道具（木、花、キノコ、岩、武器）
- ・衣装（フルフェイスマスク、羽）

ワークショップ

- ・段ボール剣作り（左側）
- ・アンティーク宝探し（右側）

(様式第8号)

添付写真② おかやま SDGs フェア 2025

●展示『シアター・グリーン・ブック』



初日スタッフ

- ・劇団正会員 河上朋子 (左下)
- ・劇団賛助会員 吉田広靖 (左上)
- ・ボランティアさん
- ・劇団正会員 福島紀衣 (右下)

(様式第8号)

添付写真③ 令和7年度未来わくわく SDGs フェスタ

●舞台『勇者タミーと山の怪物』



舞台役者

- ・謎の女（左） …劇団正会員 河上朋子（芸名キキ）
- ・タミー（右） …劇団正会員 高原小百合（芸名マナツ）

写真撮影

- ・記録係 …ボランティアさん

舞台シーン

タミーは謎の女に村人が怖がっている山の怪物をやっつけてほしいと頼まれます。  
タミーは勇気を奮い立たせ、エクスカリボー（ただの棒）で怪物と戦う決心をします。

(様式第 8 号)

添付写真④ 令和 7 年度未来わくわく SDGs フェスタ

●舞台『勇者タミーと山の怪物』



舞台役者

- ・大鴉（左） …劇団正会員 福島紀衣（芸名しっぽ）
- ・タミー（右） …劇団正会員 高原小百合（芸名マナツ）

写真撮影

- ・記録係 …ボランティアさん

舞台シーン

山の怪物と恐れられていたのは、100 年以上この山を守っていた大きな鴉でした。大鴉はゴミを不法投棄する人間を怖がらせ、山を守ろうとしていたのです。大鴉の悲しみを受け、タミーは大鴉と激オコブンプン丸の踊りを踊ります。